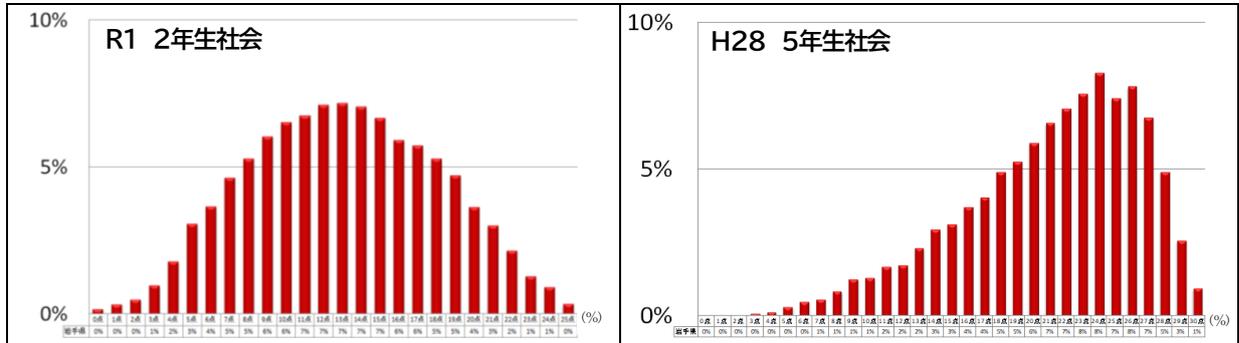


授業改善の手引 中学校第2学年社会

1 調査結果

(1) 分布状況（同一経年比較）



○ 問題数は平成 28 年度、30 年度より 5 問減り 25 問、正答数の最頻値は 14 問、平均正答数は 13 問です。平成 28 年度から 30 年度、令和元年度の分布を比較すると、山が左側に移動しており、上位層が減少している傾向にあることが読み取れます。
 （正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 ()はH30、〈 〉はH29	観 点	正答率 ()はH30、〈 〉はH29
地理的分野 (12 問)	54% (58) (59)	社会的な思考・判断・表現 (8 問)	41% (46) (49) 《63》
歴史的分野 (13 問)	51% (55) (41)	資料活用の技能 (9 問)	62% (64) (51) 《71》
活用 (4 問)	34% (40) (40)	社会的事象についての知識・理解 (8 問)	53% (58) (49) 《76》

(3) 結果概要

- 「資料活用の技能」については、昨年度とほぼ同じ正答率となりました。西暦年が何世紀かを答える問題で改善が見られました。
- 「社会的事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度から 5 ポイント下回っています。歴史的分野において、小学校で学習した人物が行った政治についての理解に課題が見られました。
- 活用に関する問題（通番号 7, 12, 19, 20）の正答率は 34% です。複数資料を読み取って社会的事象について考察、説明する問題等で課題が継続しています。

(4) 経年比較問題の状況（○改善、◇改善傾向、●課題が継続、▲は前回調査との比較マウスを表す）

通番号	正答率	比較	調査のねらい	H30比較問題No
○3	76	7	様々な図法の地図を読み取る問題	3
●7	28	▲ 5	複数資料を読み取り社会的事象について考察する問題（中国の人口抑制政策）	8
●9	45	▲ 18	経度差から時差を読み取る問題	11
●12	18	▲ 29	複数資料から特色を考察し、条件を踏まえて説明する問題（関東内陸の工業の様子）	14
●14	28	▲ 39	人物名を答える問題（聖徳太子） ※昨年度も天武天皇	16
◇18	57	9	西暦年が何世紀かを答える問題	21
◇19	29	7	複数資料を読み取り社会的事象について考察する問題（参勤交代のねらい）	23
◇20	61	2	適切な課題を設けて行う学習に関する問題（考察するための資料の選択）	26

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1	世界の六大陸・三大洋の名称と位置を理解している。	地理(1)ア	知・理			89	8	89	1	1	1	0	0
	(2)	2	中心からの距離と方位が正しい地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技			71	12	71	11	5	0	0	0
	(3)	3	様々な図法の地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技	経年		76	6	6	76	10	1	0	1
2	(1)	4	世界各地の自然環境の理解をもとに、資料を読み取ることができる。	地理(1)イ	技			48	48	15	9	13	15	0	1
	(2)	5	世界の様々な生活の様子について理解している。	地理(1)イ	知・理			75	10	4	10	75	1	0	0
3	(1)	6	アメリカ合衆国の農業・気候の関連について、複数の資料を読み取ることができる。	地理(1)ウ(工)	技			60	6	18	60	14	30	0	1
	(2)	7	中国の人口抑制政策について、複数の資料を読み取って考察し、説明することができる。	地理(1)ウ(ア)	思判表	経年活用		28	0	0	0	0	45	28	27
4	(1)	8	日本の地域区分、都道府県の名称と位置について理解している。	地理(2)ア	知・理			46	19	46	18	15	0	0	1
	(2)	9	経度差から時差を読み取ることができる。	地理(2)ア	技	経年		45	0	0	0	0	46	45	9
5	(1)	10	世界から見た日本の人口密度について、資料を読み取ることができる。	地理(2)イ(イ)	技			57	25	3	57	14	0	0	1
	(2)	11	世界から見た日本の資源の特色について考察し、判断することができる。	地理(2)イ(ウ)	思判表			36	4	36	38	20	1	0	1
	(3)	12	世界から見た日本の工業に関する複数の資料を読み取り、その特色について考察し、条件をふまえて説明することができる。	地理(2)イ(ウ)	思判表	経年活用		18	0	0	0	0	55	18	27
6	(1)	13	古代の日本の人物と史実について理解している。	歴史(2)ア～ウ	知・理			48	3	31	48	14	3	0	2
	(2)	14	聖武天皇の政治について理解している。	歴史(2)イ	知・理	経年		28	0	0	0	0	47	28	25
	(3)	15	藤原氏による摂関政治について、資料を読み取ることができる。	歴史(2)イ	技			74	74	5	16	3	0	0	2
7	(1)	16	源平の争乱について、場所を理解している。	歴史(3)ア	知・理			41	18	19	21	41	32	0	1
	(2)	17	中世の日本における社会の変動を理解している。	歴史(3)ア	知・理			39	39	25	10	25	0	0	1
	(3)	18	西暦から、その年が何世紀であるかを読み取ることができる。	歴史(1)ア	技	経年		57	0	0	0	0	37	57	6
8	(1)	19	参勤交代に関する複数の資料を読み取り、その特色について考察し、説明することができる。	歴史(4)イ	思判表	経年活用		29	0	0	0	0	44	29	27
	(2)	20	江戸時代の打ちこわしの特徴について、考察するための資料を選択することができる。	歴史(4)工	思判表	経年活用		61	12	61	19	3	4	0	2
	(3)	21	田沼意次・松平定信の政策について理解している。	歴史(4)工	知・理			59	6	19	12	59	0	0	1
	(4)	22	近世の日本における産業の発達について、資料を読み取ることができる。	歴史(4)ウ	技			71	71	7	5	15	0	0	1
9	(1)	23	国風文化の理解をもとに、平安時代の社会の様子について判断することができる。	歴史(2)ウ	思判表			46	33	8	12	46	0	0	1
	(2)	24	鎌倉文化・蘭学の理解をもとに、鎌倉幕府・江戸幕府の仕組みについて判断することができる。	歴史(3)ア, (4)イ	思判表			56	10	15	56	13	5	0	1
	(3)	25	古代から近世にかけての日本における文化の変遷について、史実を判断することができる。	歴史(2)ウ, (3)イ, (4)工	思判表			50	25	11	12	50	0	0	1
全体正答率								52							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 題意に合わせ、個々の資料から読み取ったことを関連付けて考察し、表現する学習の充実を図りましょう。

ア 問題例とその概要

《問題例》【3】(2)・通番号7】(経年比較・活用問題)

<社会的な思考・判断・表現>

〔問題文〕
 次の資料エは中国の「一人っ子政策」をめぐる動き、資料オは中国の生産年齢人口割合の推移、資料カは中国の経済成長率の推移を示しています。資料エ中の2002年以降の政策が進められた理由の一つとして考えられることを、資料オ、カの両方を読み取り、「生産年齢人口」ということばを用いて説明しなさい。

1979年	「一人っ子政策」が開始される。
2002年	一定の条件を満たした家庭で、二人目の出産が許可される。
2013年	一方が一人っ子の夫婦に、二人目の出産が許可される。
2016年	「一人っ子政策」が廃止され、二人目の出産が許可される。

資料オ 中国の生産年齢人口割合の推移
※生産年齢人口…中国では15～59歳の人口を指す。

(経済産業省資料から作成)

資料カ 中国の経済成長率の推移

(IMF資料から作成)

《正答例》生産年齢人口の減少が労働力の低下につながり、経済成長をさまたげると考えられるから。

《解答状況》 【正答率】28% 無解答率27%

《誤答分析》

誤答例として、「生産年齢人口が2010年から年々減ってきているから」など1つの資料のみから読み取ったり、「生産年齢人口と経済成長率が減ってきているから」など複数の資料を関連付けないまま読み取ったりする生徒が多いと推察されます。

イ 指導上の留意点

生徒が単元、本時等の目標(生徒のゴールの姿)を実現するために「社会的な見方・考え方」を働かせることができるよう次のような工夫をして、問題解決的な学習の充実をめましよう。

《ポイント1》(学習問題【課題】、発問等)の構成の工夫

生徒がどのような視点で社会的事象を捉え、どのような考え方で思考していけばよいのかを明確に示しましょう。

資料エを基に

【問いの例】

「なぜ、中国では一人っ子政策を2002年から緩め、2016年からは廃止したのか？」

《生徒の予想》

- ・子どもの数が予想していた以上に減り続けているから。
- ・子どもが減っていくと困ることがあるから。

《ポイント2》教材化・資料提示の工夫

生徒が社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え理解に繋げるために、問いに即した資料の準備や、生徒が比較したり関連づけたりして思考・判断できるように資料の提示や加工をしましょう。

資料オを提示して

【発問例】「中国の生産年齢人口割合の推移には、どのような特色があるのか？」

《生徒の姿》

- ・2010年までは増え続け、70%を超えていた。
- ・2010年以降減少してきている。

資料オの読み取り後、資料カを提示して

【発問例】「中国の経済成長率の推移には、どのような特色があるのか？」

《生徒の姿》

- ・2007年ごろまでは増え続けていた。
- ・2010年以降は、減少し続けている。

《ポイント3》対話的な学習活動の工夫

生徒が個々に調べたり考えたりしたことを基にして、自分の言葉で表現する活動や互いの考えを比較したり関連付けたりするなどして学びを深めることができるような学習活動を設定しましょう。

資料オ、カそれぞれの読み取りを基に

【発問例】

「生産年齢人口割合と経済成長率にはどのような関連があると考えられるか？」

[STEP1]個人で考え文章にまとめる

[STEP2]グループで考えを交流

[STEP3]グループでの考えの交流の内容も踏まえ個人で考えをまとめる。

《生徒の姿》

- ・生産年齢人口の減少が労働力の低下につながり、経済成長をさまたげると考えられる。

(2) 事象の意味や意義を解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したり、意見交換したりする学習の充実を図りましょう。

ア 問題例とその概要

《問題例》【8】(1)・通番号19】(経年比較・活用問題)

＜社会的な思考・判断・表現＞

〔問題文〕 次の文章中の参勤交代の制度について、あとの資料ア、イをもとに調べ、生徒たちが話し合っています。発言中の□にあてはまる適切な内容を、「財力」「幕府」ということばを用いて書きなさい。

江戸幕府は武家諸法度を定め、大名の築城や結婚などに制限を設け、大名の統制をきびしくした。第3代将軍である徳川家光は、大名の妻や子どもを江戸に住まわせ、大名に江戸と領地を1年ごとに行き来させる参勤交代を制度化した。右の絵は、大名行列の様子を表したものである。

資料ア ある藩の1年間の支出
大名行列の費用 4.8
江戸での費用 29.3
領元での費用 20.1
幕府への納金(参勤)など 43.6%
京都・大坂での費用 2.4

資料イ 武家諸法度(寛永令)の一部
一 大名小名、在江戸の交替相定むる所なり。毎年所定時節参勤致すべし。従者の員数近來甚だ多し。且は国郡の費、且は人民の勞なり。向後其の相定を以て、之を減少すべし。……(大名・小名の在所と江戸の交替は、毎年決めた時期を守り参勤すること。従者は多数にせず相応に減らすこと。ただし公役のときは財力に応じ)

資料アから、大名行列の費用や江戸での費用など、多くの費用がかかっていますね。徳川家光が参勤交代の制度を取り入れた目的として、どのようなことが考えられますか。

目的があったと考えられます。

《正答例》 藩の財力を低下させて幕府に反抗しないようにする。

《解答状況》 【正答率】29% 無解答率27%

《誤答分析》

誤答例として「藩の財力を低下」「幕府に反抗させない」のどちらか一方のみ記述している反応率が15%（抽出解答より）であり、各資料からわかることを関連付けることができていないと考えられます。また、無解答率も27%であることから、指定されたことばを用いて記述することに難しさを感じる生徒が多いと推察されます。

イ 指導上の留意点

歴史的分野の学習全体を通して、各時代を特徴付ける法令や政策などの「意味」「意義」や「特色」などについて、生徒が社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせる発問をもとに、いくつかの資料を関連付けて説明したり、課題について適切なことばを用いて再構成して表現する活動を取り入れたりすることが大切です。

指導展開例

中学校2年生 単元名:江戸幕府の成立と対外関係

◎本時のねらい
江戸幕府の大名に対する諸政策の意味・意義を、幕府の支配体制の確立という視点から説明することができるようにする。

思考を引き出す発問例	学習活動	生徒の反応
<p>☆鎌倉時代、室町時代と江戸時代の長さを比べて、どのようなことを感じますか。</p> <p>☆ 時間の推移、比較による差異</p>	<p>1 学習課題の設定 なぜ江戸幕府は、260年も全国を支配できたのだろう。</p>	<p>なぜ260年も続いたのだろうか？</p>
<p>資料から、どのようなことがわかりますか。</p>	<p>2 予想 (大名の統制、身分制度、対外関係、他に分類する)</p>	<p>城の修理や新築は禁止されていることがわかります。</p>
<p>☆江戸幕府は、なぜ武家諸法度や参勤交代を定めたのでしょうか。</p> <p>☆資料からわかることに共通する幕府のねらいは何でしょうか。</p> <p>☆ 事象同士の因果関係</p>	<p>3 学習課題の追究 (1) 幕府領と大名領の割合、大名の配置、武家諸法度と参勤交代等の資料を読み取る。 (2) ○資料からわかったことを比較し、それらに共通する幕府のねらいを考え、資料をもとに説明し合う。</p>	<p>大名は1年おきに江戸で生活しなければなりません。</p> <p>築城や大名の結婚の制限は、藩の軍力を弱めて幕府に反抗できないようにするねらいがあったと思います</p>
<p>☆江戸幕府が260年も全国を支配することでできたのはなぜですか。</p> <p>☆ 時間の推移、事象同士の因果関係</p>	<p>4 まとめ ○江戸幕府が260年も全国を支配することができた理由を、ポイントとなる政策とそのねらいを挙げてまとめる。 江戸幕府は、支配体制を維持するために大名の配置を工夫したほか、武家諸法度の制定や参勤交代の制度化により大名の軍力、経済力を抑え、幕藩体制を固めた。</p>	<p>大名は参勤交代で藩の1年間の支出の約3割の費用がかかったので、お金の面でも幕府に反抗できるだけの力はなくなったと思います。</p>

☆ 社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせた発問 ○関連付けたり、再構成したりして表現する学習活動